

押さえておきたい「基本」と「応用」!

速攻解説

Dr. 椎木の臨床メモ

麻疹の診かた

著

沖縄県立中部病院感染症内科副部長

椎木創一

日本医事新報社では、
Web オリジナルコンテンツを
制作・販売しています。

▶ 一覧表示



本コンテンツはハイブリッド版です。PDF だけでなくスマホ等でも読みやすい HTML 版も併せてご利用いただけます。

- ▶ HTML 版のご利用に当たっては、PDF データダウンロード後に弊社よりメールにてお知らせするシリアルナンバーが必要です。
- ▶ シリアルナンバー付きのメールはご購入から 3 営業日以内にお送り致します。
- ▶ 弊社サイトでの無料会員登録後、シリアルナンバーを入力することで HTML 版をご利用いただけます。登録手続きの詳細は下記をご参照ください。

<https://www.jmedj.co.jp/page/resistration01/>

▶ 登録手続き解説

- ▶麻疹を疑い診断することがデキル
- ▶麻疹を疑ったときに行うべき感染対策がデキル
- ▶麻疹非流行期：日頃から備えておくことがワカル
- ▶麻疹流行期：診療体制の維持継続のためにすべきことがワカル

I .麻疹の診断

症例から学ぶ「典型麻疹」と「修飾麻疹」

【症例1：30歳代、男性】

- ・主訴：発熱、咳嗽
- ・現病歴：生来健康なA国在住者。来院5日前に発熱39℃あったが、数日で解熱したため来院2日前にわが国に到着。同日から咽頭痛、鼻汁あり。来院当日から発熱と体幹部の発疹に気づいて救急室を受診した。来院時、咳嗽、鼻汁、咽頭痛と悪寒はあったが下痢は認めない。
- ・身体所見：来院時血圧110/80mmHg、脈拍105/分、呼吸数16/分、体温38.2℃、SpO₂ 98% (室内気)。ややぐったりしているが会話はできる。眼球結膜に軽度充血あり、口腔内の頬粘膜に微細な白色点あり(図1)。聴診では呼吸音清で喘鳴なし。心雑音もない。腹部は平坦軟で圧痛なし。体幹を中心に顔面や手掌にも癒合傾向のある蕁麻疹様の発疹があるが、痒みはない(図2、3)。



図1



図2



図3

麻疹 (measles) とは

❶ 原因ウイルス

- ・麻疹ウイルス (パラミクソウイルスの一員)

❷ ウイルスのキャリア

- ・ヒトのみ (動物や蚊から感染しない)

❸ 感染経路

- ・空気、飛沫、気道分泌物への接触で感染する
- ・同室内、同じショッピングモールにいたことでも感染する事例報告がある
- ・発症者がいなくなったあとでも、その空間の空気中に2時間程度は残存して感染性を持つ
- ・長時間環境面には存在しないので、物品を介した感染のリスクは高くない
- ・気道から感染する発症率は高く、免疫がなければほぼ全員発症する

❹ 潜伏期間 (感染してから発症するまでの期間)

- ・平均10日 (7~18日)、発疹が出るまでは約14日

❺ 感染可能期間 (感染者が他者に感染を起こしうる期間)

- ・風邪様症状 (カタル症状) が出現する前日から発疹出現4日後まで (または解熱後3日間)
- ・ただし、免疫不全者はより長期に及ぶことがある

⑥ 典型麻疹における症状 (図4)

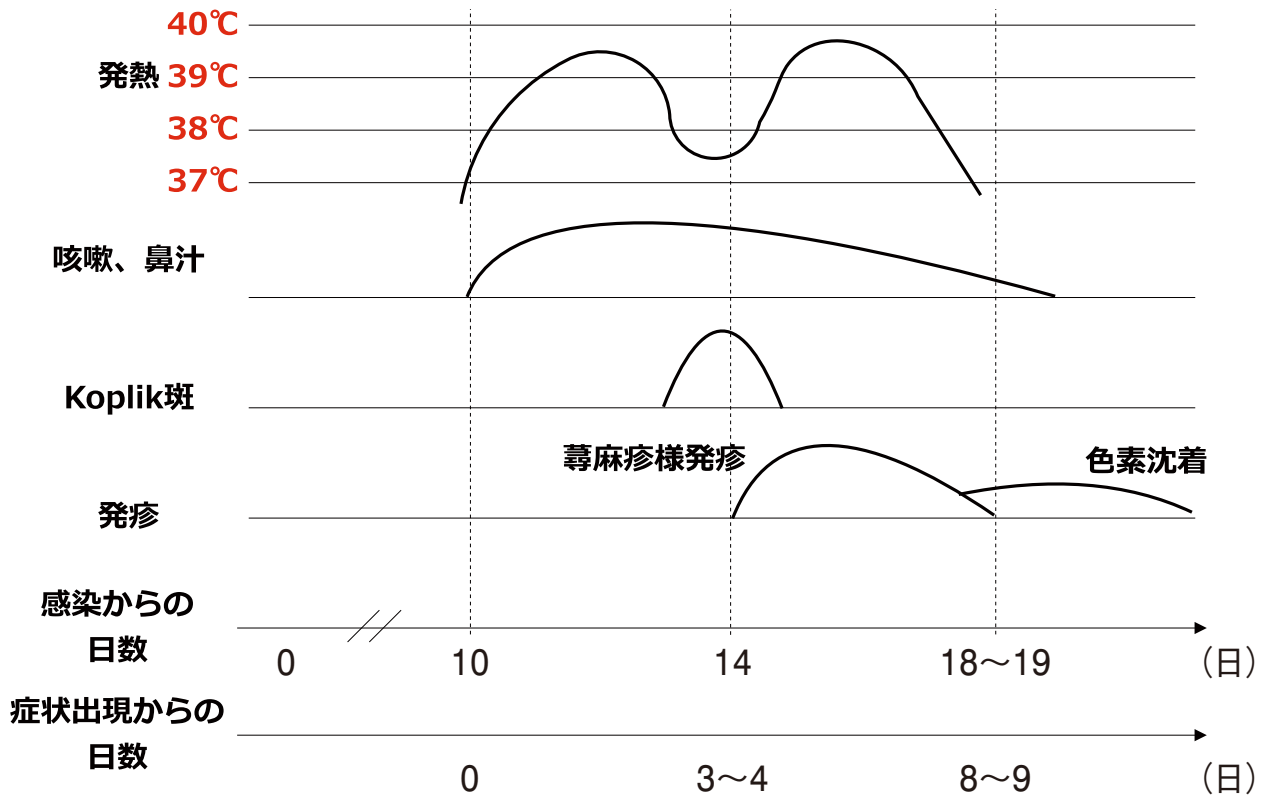


図4 典型麻疹の臨床経過

① 発熱

- ・ 39℃を超える高熱が出ることが多い
- ・ 二峰性になるのが特徴
- ・ 発症3～4日目に37℃まで解熱するが、その後に発疹出現とともに再び高熱となる

②皮疹 (図5-1、5-2、5-3、5-4)



図5-1



図5-2



図5-3



図5-4

- ・1cm程度の蕁麻疹様の皮疹で、平坦だがごく軽度の隆起を伴うこともある
- ・頭頸部から始まって体幹に広がり、その後に四肢、手掌・足底にまで広がる
- ・若干の癒合(つながり)を見せ、痒みはあまりない

③ Koplik 斑 (図6-1、6-2)



図6-1



図6-2

- ・口腔粘膜に出現する麻疹に特徴的な所見で、舌圧子でこすっても落ちない
- ・「斑」というほど大きくなく「粗塩」を振ったような点々に見える
- ・よく見れば頬部粘膜だけでなく咽頭や口蓋にも認める

7 合併症

- ・乳幼児、20歳以上の成人、妊婦、免疫不全者が起こしやすい
- ・呼吸器関連が多く、肺炎は重症化する。クループ、中耳炎、副鼻腔炎も多い
- ・神経系は、頻度は少ないものの重症であり、急性散在性脳脊髄炎 (acute disseminated encephalomyelitis : ADEM)、脳炎、亜急性硬化性全脳炎 (subacute sclerosing panencephalitis : SSPE) が知られている

8 診断

- ・症状のみでの診断は困難なことが多く、特に後述する修飾麻疹ではさらに難しい

①抗体検査

- ・血清検体で免疫グロブリン (immunoglobulin) : IgM、または IgG